

## 企業におけるイノベーションの起こし方 ～人材育成とシステムなど多角的視野から～

近畿大学  
経営学部 商学科  
教授 博士 (商学)  
廣田 章光



株式会社リクルートマネジメント  
ソリューションズ  
エグゼクティブ・プランナー  
井上 功



B-Bridge International,  
Inc.  
代表取締役社長  
榎本 博之



(ご登壇順)

### 目 次

概要 .....	1
はじめに .....	1
プレゼンテーション	
1. 問題解決能力を活かす問題発見能力の育成・習得 近畿大学経営学部 商学科教授 博士 (商学) 廣田 章光.....	2
(1) 自己紹介 .....	2
(2) パンデミックにより明らかになったこと .....	2
(3) 日米比較 .....	3
(4) 今後の日本の課題：イノベーション実践人材の育成 .....	4
2. イノベーション【実行力不全】 株式会社リクルートマネジメントソリューションズ エグゼクティブ・プランナー 井上 功.....	5
(1) 自己紹介 .....	5
(2) イノベーションの実行力不全の現状 .....	5
(3) イノベーションの実行力不全を突破するポイント .....	6
3. 企業におけるイノベーションの起こし方 ～人材育成とシステムなど多角的視野から～ B-Bridge International, Inc. 代表取締役社長 榎本 博之 .....	7
(1) 自己紹介 .....	7
(2) 企業がイノベーションを起こすには .....	7
(3) 社員にとっての魅力向上は企業の持続性を向上させる .....	7
(4) イノベティブな組織に求められること .....	8
トークセッション	
(1) イノベーションの必要性：必要な「焦り」とアップデートの重要性.....	9
(2) イノベーションが生まれる組織とは .....	9
(3) イノベーターとマーケター .....	12
おわりに .....	13

## 概要

本講演は、イノベーションを引き起こす仕組みづくりのスペシャリスト 3 人による、プレゼンテーションおよびトークセッションである。プレゼンテーションでは、廣田講師より、日米比較から日本企業の課題を明確化する。井上講師より、イノベーションの実行力の現状について明らかにする。さらに榎本講師より、イノベティブな組織に必要な要素と、海外事業拠点としてのシリコンバレーの適性について共有する。トークセッションでは、組織でイノベーションを生むために必要な視点について、3 人の講師それぞれの経験／考えを共有する。

## はじめに

本講演は、東京／大阪／シリコンバレーをつなぎ、企業や大学の現場で、イノベーションを引き起こす仕組みづくりについて異なるアプローチから指導している 3 人のスペシャリストによるプレゼンテーションおよびトークセッションである。

まずは 3 人の登壇者について、登壇順に簡単に紹介する。

近畿大学 経営学部 商学科で教授を務める廣田章光氏は、企業経験と学術探求をベースに、デザイン思考によるイノベーションを推進している。本講演では「学生(未来)／企業」の視点から見た日本の現状についての知見を共有する。

株式会社リクルートマネジメントソリューションズでエグゼクティブ・プランナーとしてイノベーションの創造を仕組み化している井上功氏は、イノベーション創造に関しクライアント企業への企画／開発、実践を行っている。本講演では「企業／人材育成」の視点から知見を共有する。

B-Bridge International, Inc.の代表取締役社長である榎本博之氏は、シリコンバレー（アメリカ）で日本の自治体／企業／若者を世界につなぐ「橋わたし」をしている。本講演では「世界の中の日本」の視点から知見を共有する。

本講演は図 1 の流れで展開する。本稿は、プレゼンテーション部分とトークセッション部分とに分けて記載する。プレゼンテーション部分は登壇順に概要をまとめ、トークセッション部分は話題別／発言者別に発言内容の概略をまとめる。

図 1

プレゼンテーション (登壇順)	・ 廣田章光氏 ・ 井上功氏 ・ 榎本博之氏	: 問題解決能力を活かす問題発見能力の育成・習得 : イノベーション【実行力不全】 : 企業におけるイノベーションの起こし方 ～人材育成とシステムなど多角的視野から～
↓		
トークセッション	「企業におけるイノベーション創造に必要な要素」についての、三者それぞれの視点を通じた対話	

## プレゼンテーション

ここでは、講師ごとにプレゼンテーションの概要を紹介する。

### 1. 問題解決能力を活かす問題発見能力の育成・習得

近畿大学経営学部 商学科教授 博士（商学） 廣田 章光

#### （1）自己紹介

商品開発に興味を持ち、株式会社アシックスで研究所／新規事業開発／経営企画／商品企画／営業、さらにはマーケティング部門の設立／運営／仕組みづくりなどを経験した。システム化された開発フローが存在せず、現場で地道な苦勞が繰り返されていることに疑問を持ったことをきっかけに、多くの人が効率的に商品開発できる仕組みづくりを目指し、研究を開始した。2008年より近畿大学経営学部教授として、マーケティング戦略／製品イノベーション／デザイン思考を中心に研究を行っている。

2013～2014年にイノベーション／スタートアップ研究のため、スタンフォード大学（Mechanical Engineering Center of Design Research）へ客員教授として着任した。市場創造できるエンジニアの育成を主目的とし、新規事業や起業家を生み出す原動力の一部を担う部門である。デザイン思考はもちろん、日常的にビジュアルを用い可視化しながら議論する姿が特徴的だった。この滞在経験がきっかけとなり、デザイン思考をテーマとして扱い始め、現在に至る。

#### （2）パンデミックにより明らかになったこと

新型コロナウイルス感染症の世界的感染拡大（以下 パンデミック／コロナ禍）により、明らかになった日本の特徴を以下に挙げる。良い点／改善すべき点の両面が見られる。

- ・ 先端技術社会ではなくなっていた
  - ： 技術立国である反面、使い方の仕組みが不十分
- ・ 「現場力」と現場頼み
  - ： 法律がなくても自ら律する力を持つ
- ・ 今までの「あたりまえ」がなくなった世界
  - ： 世界の変化に対応するためには、解決だけでなく、問題を発見する能力が重要
- ・ 既存分類、ルールの制約の強さ
  - ： 既存の枠組み／ルール（常識）に縛られすぎている